

# 将来を見据えて

生活者目線は大切です。しかし、行政だからこそ見えることや、苦慮していることでもあります。明るい未来を現実のものとするために、現在どのような課題を検討し、備えようとしているのか、そして、問題にどのように対応しようとしているのでしょうか。

## 老朽化が進む社会基盤

今、全国の自治体で大きな問題となっているのが、社会基盤の老朽化です。学校や道路、橋、上下水道などの老朽



▲教室棟は1964年に、管理棟は1972年に建設の福岡小学校。老朽化が進んでいます



▲大型車がよく通るせいか、舗装が傷んでいる本木区から舎利蔵区へと続く道



▲1974年建設の国道3号に架かる南天神袴道橋。コンクリートが剥離してきています

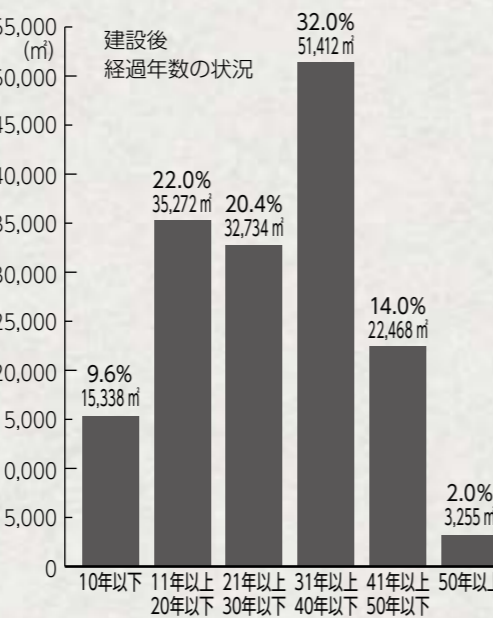
化が大きな問題になってきているのです。戦後の高度経済成長時代における人口増大への対応として、次々に整備した、これらの社会基盤が、大量に、そして同時期に集中して、更新時期を迎えるのです。とある他県の自治体では、今後50年間で施設の修繕や建て替えにかかる費用に対して、使える予算はその半分もないということ、財政が行き詰まってしまうという危機感が広がっています。市民会議などを開き、対応の検討を始めています。

管理計画」を策定するよう要請しています。将来的な人口減少等で公共施設の利用需要が変化していくことを予想しつつ、更新、統廃合、長寿命化などを、財政も考え計画的にしなさいという内容です。福岡市も例外ではありません。老朽化が進む学校、道路、橋などがたくさんあります。例えば教室部分が築51年になる福岡小学校。コンクリートに亀裂が入るなどしていることから、幾度となく改修工事に入っています。ほかの学校についても老朽化が進んでいます。また、西郷川や国道3号などに架かる橋にしても、市内274橋の内、半分を超過す147橋が築35年以上たっています。

## 危惧される市民サービス

市の社会基盤の大半も、近い将来に更新時期を迎えます。その更新コストは、場合によっては現状の財政状況で対応できる域を越えるかもしれ

れません。何も対策を取らなければ、近い将来、公共施設の運営、すなわち市民サービスの提供に支障が生じる可能性もあるのです。



▲市が保有する建物の建設後経過年数と延べ床面積。築31年以上経過する施設の延べ床面積は77,135㎡で、施設全体の48%を占めています

これまで、成長と拡大を続けてきた福岡市も、まちづくりの重大な転換期を迎えているのかもしれない。今後の人口の増減や少子超高齢社会の見通しを立て、それに伴う施設需要の変化などを精査していく必要があります。今以上に計画的で予防的な維持管理をし、近い将来に必ず到来する大量更新時期に備えなければいけません。

## 声 福岡県に聞く

### 道路管理者で会議を立ち上げ 老朽化対策に取り組んでいます



▲県内の道路橋等について老朽化対策の必要性を熱く語る福岡県の県土整備部道路維持課の 義経 俊二課長

将来を見据え、将来に備え、今できること、今すべきことを着実に進めていくことが重要です。

県内には市町村が管理する道路橋は、約2万2千橋あります。県内全ての道路橋の約7割を占めています。福津市のみならず、各市町村においても老朽化対策が喫緊の課題となっているのです。

このような中、県や市町村など、県内の全ての道路管理者で構成する「福岡県道路メンテナンス会議」を昨年6月に立ち上げました。この会議を通じて「点検や診断、措置、記録」のメンテナンスサイクルを確実に、そして持続的に回し、全県的な老朽化対策に取り組んでいます。

## 特集 あした天気になあれ

## 声 市職員の

道路や橋の管理といえば維持管理課 総力戦で取り組まないと



維持管理課 井上 廣幸課長

空き家や定住化といえば都市計画課 定住化促進に結びつけたい



都市計画課 西地 豊敏課長

交流人口や地域の活性化といえば商工観光課 市内を周遊させたい



商工観光課 本多 研介課長

男性の子育てといえば男女共同参画推進室 育児にがんばる男性を応援



男女共同参画推進室 福田 慶子室長

行政改革や地方創生といえば行政経営企画課 長期的な視点で行政経営を



行政経営企画課 小田 幸暢課長

費用といえば財政課 事業を見直し選択と集中で



財政課 田中 英智課長



地方創生の実現に向け6月16日に結ばれた包括協定